

更年期症候群における 加味逍遥散と苓桂朮甘湯 の併用について

臨床 § 方 劑

峯 尚志



はじめに

- 加味逍遙散は更年期の女性の、のぼせ、ほてり、イライラに頻用される処方であるが、牡丹皮、山梔子という寒性の生薬を含み、冷えをともなった女性に処方すると、却って冷えたり、下痢をする場合がある。本来、このような患者さんには、逍遙散が適するが、エキス剤がない。そこで私は加味逍遙散に苓桂朮甘湯を合わせることで逍遙散の代用としている。苓桂朮甘湯は胃腸にやさしく、桂皮の温性で冷えをとり、動悸、めまいなどの自律神経を整える作用があるので、有用な組み合わせだと感じているので症例を提示して、運用の実際を紹介する。



症例 47歳女性

【主訴】

いろいろ、動悸、のぼせ、感情の制御ができない。

【現病歴】

11歳の男児の母、子供の手がかからなくなり、3ヶ月まえより、薬局のスーパーで仕事を開始、職場の人間関係がうまくいかず、子供も大きくなって手がかからなくなった反面、反抗するようになって、何に対しても腹が立つようになり、しばしば動悸、めまいをおこす。月経は最近周期が乱れがち。排卵のころと月経前の1週間はいろいろが強く、時に感情が高まり涙が出る。



【現症】

身長157cm、体重47kg

血圧117/70mmHg、脈拍75、整

【既往歴】

特記すべきことなし。

【東洋医学的所見】

脈、細弦数。舌、淡紅色からやや紅色。白苔を少量認める。

腹部は腹力2/5で、右胸脇苦満あり、臍傍に動悸を振れる。

診察時、職場や家庭のことを話すとき、涙ぐんでいる。誰も自分のことをわかってくれないと思う。しばしば動悸やめまいを自覚し、疲れがたまったりストレスがあると下痢をする。



経過

以上の所見より、肝鬱血虚、肝脾不和、脾虚肝乘、肝陽上亢としてクラシエ加味逍遥散エキス2包、苓桂朮甘湯エキス2包分2食間を処方、気持ちを抑えられないときは屯用として甘麦大棗湯エキス1包の服薬を指示した。

1週間後、動悸、めまいは、改善し、肝臓のあたりがワナワナしていたのがなくなり、気持ちが落ち着いた。頓服も甘くておいしく、ストレスがあったとき服用すると気持ちが緩んでスーとなるので、他院からいただいている安定剤も飲まなくてすんだ。職場もやめようか悩んでいたがもう少し続けてみることにした。



加味逍遥散（丹栀逍遥散） 『内科摘要』

- 柴胡 3、当归 3、芍药 3、
白朮 3、薄荷 1、甘草 2、生姜 0.5、
牡丹皮 2、山栀子 2



苓桂朮甘湯

- 茯苓6、桂皮4、甘草2、白朮3
- 病痰飲者、当以温藥和之
- 心下有痰飲、胸脇支滿、目弦、苓桂朮甘湯主之



加味逍遙散合苓桂朮甘湯

- 柴胡3、当帰3、芍薬3、白朮6(3+3)、
茯苓9(3+6)、薄荷1、甘草3.5(1.5+2)、
生姜0.5、牡丹皮2、山梔子2、桂皮4
- 甘草の量が増えるものの利尿作用を持つ白朮、茯苓の量が増えて、桂皮を加えることで温陽利尿の効果が高まり、加味逍遙散の牡丹皮、山梔子、薄荷による冷えをカバーしてめぐらせてくれる。臨床的には脾の作用を高めて温陽利尿の効果が高まり、心腎の交通がよくなると感じている。



加味逍遙散と苓桂朮甘湯 併用の意味

- 更年期に入り血虚の傾向が進み、肝血不足のために、感情を制御できなくなり、肝の虚火が上亢しいらいら、精神不安をきたしたものであるが、本例は胃腸虚弱で加味逍遙散だけを飲むと、心窩部痛と下痢をおこし、身体が冷えてくる。このような場合安中散や六君子湯を併用することがあるが、苓桂朮甘湯を併用するケースも多いと感じている。苓桂朮甘湯は痰飲による自律神経の不安定に効果を発揮し、動悸、めまいを改善するとともに、脾を中心に上下方向の気血水の流れを調和する働きがあり、腎にも作用して温腎し、心腎を交通させるのでのぼせにも冷えにも有効である。



楽 まとめ

- 日常診療においては、加味逍遙散単独が適応する女性よりも加味逍遙散合苓桂朮甘湯の適応する患者さんが多く、熱状が少なく本来ならば逍遙散の適応だった患者さんに対しても有効で、長く続けることができる。苓桂朮甘湯は温薬であり、補脾、補腎陽の作用を併せ持つことから、加味逍遙散合苓桂朮甘湯は更年期を迎える女性にとって頼りになる処方と位置づけることができる。

